

平成 30 年度 第 6 回 理事懇談会 抄録

日 時 : 平成 31 年 1 月 13 日 (日) 11:30 ~ 13:00
場 所 : 田町カンファレンスルーム
出 席 : 理 事 : 半田、斉藤、森本
 網本、伊藤、梶村、黒澤、白石、大工谷、高橋 (哲)、高橋 (仁)
 田中、谷口、知脇、中川、中前、藤澤、松井、山根、吉井
監 事 : 太田、長澤、辺土名
欠席者 理 事 : 内山、植松
 監 事 : なし

I. 協議事項

(全 2 題)

1. 新生涯学習制度について

(半田会長)

<提出者の意見>

10 月の組織運営協議会以降、登録理学療法士までの部分 (前期研修・後期研修) と認定・専門理学療法士制度の部分について、士会が運用しやすいこと、会員が受講しやすいことを念頭に委員会にて検討を進めた。現在の委員会案について、ご意見をいただきたい。

<主な意見>

- 実地研修の受講パターンの一つとして指導者の勤務日以外の日に見学を行う方法は、安全管理の観点からは非常に難しい。代行者が付いていれば問題ない。
- 他施設へ研修を受けに行きにくい施設も多く、修了率が低下すると意味をなさなくなるのではないか。
- 実地研修を見学で行うという方法を取ることは、診療参加型の研修という観点から外れていかないか。
- 指導者が休みの日に見学を行うのは、安全管理の観点に加え、患者心理としてもいかがなものか。
- 後期研修カリキュラムにある「理学療法診断学」は何を指すのか、障害構造をきちんと分析するということだろうが、どのようなモデルを用いて行うのか。
- 登録理学療法士における 5 年毎の更新要件について、一律に考えるのは疑問がある。例えば 10 年目で更新をする理学療法士が、臨床経験 3 年目等を想定したプログラムを再度受講するのはいかがなものか。都道府県士会研修会や分科学会等にて読み替え可能とするなど幅を持たせてはどうか。

今回指摘されたご意見等を受けて、さらに検討を重ねることとなった。

2. 理学療法士のキャリアに関する委員会設置及びホームページでの情報提供の提案

(吉井常務理事、谷口理事、知脇理事)

<提案者の意見>

女性会員対策特別委員会「最終答申書」(2017年1月8日)の中で、「…広く会員のワーク・ライフ・バランス等を支援する「働きやすい環境づくり部(仮称)」を設置すべきである。」との答申が行われたことを踏まえ、日本理学療法士協会のキャリア支援としてこの活動を実施する継続的な委員会を設置し、理学療法士のキャリアに関する情報収集を行い、ホームページでの継続的な情報提供を行うことを提案する。

<主な意見>

- 女性も念頭に置いた「働きやすい環境づくり委員会」という名称だが、理学療法士の職場環境は女性にとって働きにくいものなのか。実態はどうなっているのか。
- 趣旨は理解できるが、「女性」という表記に対し、例えば性的少数者等がどう受け止めるかなどといったことにも配慮する必要があるのではないかと。あらゆるジェンダーを含めた表記にしたほうが受け入れられやすいのではないかと。
- 理学療法士労働環境委員会の分掌規程には「理学療法士の労働処遇環境に関すること」「理学療法士の働き方の提言に関すること」がある。まずはこの委員会で議論することが先ではないかと。
- 時期的に次年度の設置は難しいので、2年後以降の事業計画に向けて、まずは調査等を行うのが良いのではないかと。

次年度の事業計画がほぼ固まっている現状を鑑みると、理学療法士労働環境委員会委員長とも相談の上、本事項提案者も加わって次々年度以降に向け検討していくこととなった。